新たな発見が生まれる

郷土の歴史を学ぶ

伝統文化を継承する

気軽に自由に過ごす

まち博へ行こう

飛騨高山 まちの博物館

城下町高山の新しい交流拠点「飛騨高山まちの博物館」

その収蔵品を紐解くと、現在に生きるわたしたちと過去の先人たちとの、刻を超えた出会いが待っています。

広報たかやまでは、収蔵品とそれにまつわるエピソードを紹介していきます。

人の魅力、まちの魅力、高山の魅力

第九章 町人の暮らし

高山には多様な職種が存在する町人町と、そこで営まれた暮らしがありました。「町人の暮らし」の展示室では、商売の道具や、日常生活で用いられた様々な道具を展示しています。

現在のような工業製品のない時代には、さまざまな工夫をこらした道具が生み出されています。例えば、ろうそくや提灯といった灯りの道具の中には、ただ明るくするだけでなく、小さく折りたたんで携帯できるものがあり、当時の便利な懐中電灯として用いられました。高山で初めて電灯がついたのは明治37年(1904)ですので、100年ほど前まではこうした道具が活躍していたことでしょう。

また、女性のおしゃれのための貴重なかんざしや櫛なども展示しています。美しい装飾品で着飾りたいという気持ちは、今も昔も変わらないのです。

現代の生活の中では、こうした道具を使用することはもちろん、実際に目にする機会もほとんどありません。しかし、道具を用いた人々の姿を想像してみると、私たちの生活とのつながりを感じることができます。昔の暮らしの知恵や、生活の彩りに触れることも、博物館のおもしろさの一つでしょう。

問合先 まちの博物館 ☎32-1205

当時の提灯ほか(「町人の暮らし」展示室で展示中です)

特別展のごあんない

東山三社の至宝
～今も息づく祈りと願い～

期間　5月13日(日)まで

東山三社(東山白山、東山神明、錦山の各神社)の歴史資料や祭礼道具、円空仏などを展示しています。

(主な展示資料)円空作稲荷三神像

利用のご案内

◆**開館時間**　展示室　午前9時～午後7時
研修室　午前9時～午後9時
庭　園　午前7時～午後9時

◆**休館日**　無休(臨時休館有)　◆**観覧料**　無料

◆**駐車場**　空町駐車場(市民の方は2時間無料です※証明書要)

〒506-0844　高山市上一之町75　☎32-1205　FAX35-1970
(まちなみバス「博物館前」下車すぐ)

市長だより⑥

震災一年経過と脱原発に向けて

高山市長 國島芳明

多くの尊い命が失われた東日本大震災から1年の歳月が経ちました。お亡くなりになられた方々、最愛の人を失われたご遺族の皆様に衷心より哀悼の意を表します。また、今もなお行方の分からない方々のご家族をはじめ、被災された全ての方々に、心からお見舞いを申し上げます。市では、今後とも被災地支援と被災者の受け入れに全力で取り組んでまいります。

さて、私は先月「**安全の確証が得られない原発の運転には断固反対する**」と表明しました。世界から原発を無くしたいとの一心です。

しかし、原発の廃止によって、電力不足や経済の低迷など、私たちの生活にも降りかかる多くのリスクも受け止めなければなりません。これらを乗り越えるためには、一層の節電と電力不足を補うため、自然再生エネルギーの促進を含めた電力増強が必要であると考えます。これらの条件が整い、原発に依存しない世界が一日も早く訪れることを願って止みません。

市では、今月から環境政策の専門部署を設置し、自然再生エネルギーの利用促進をさらに加速させます。市民の皆様におかれましても、より一層のご理解とご協力をお願いします。

R100 古紙パルプ配合率100%再生紙を使用
印刷／株式会社 美野電子印刷